

住宅団地モデルA

番号	土 地 利 用	面 積 (ha)	質 指 数	賦 存 量 (NC)
1	住 宅 b	27.322	1.7	46.447
2	" c	9.070	2.0	18.140
3	商 業 施 設	0.804	1.3	1.045
4	小 学 校 用 地	1.921	3.0	5.763
5	コミュニティセンター	1.022	3.0	3.066
6	幼 稚 園	0.393	3.0	1.179
7	道 路 (歩道) b	2.310	3.5	8.085
8	" (車道) a	10.236	1.0	10.236
9	児 童 公 園 等	1.880	3.6	6.768
10	私 道	0.460	2.6	1.196
11	調 整 池	3.084	5.0	15.420
12	自 然 緑 地	5.013	7.0	35.091
13	造 成 緑 地 a	2.440	6.0	14.640
14	" b	0.445	4.0	1.780
計		66.400 (ha)		168.856 (NC)

(2) 住宅団地のモデル

例①A団地（仙塩都市計画区域内で仙台から比較的離れた市街化区域）

計画団地のかかるメッシュの周辺自然環境質指数は、畑地、山林等もあって4.25（「4」が3メッシュ、「5」が1メッシュ）市街化区域となっている地域もあり、将来は3.25（「3」が3メッシュ、「4」が1メッシュ）となると予想される。また、人口の集積は約4千人/100haが見込まれる。したがって、グリーンミニマムは周辺の自然環境からは2.3、環境容量は $66.4 \text{ ha} \times 1.85 = 122.84 \text{ EC}$ 、人口からは1.86、環境容量は 123.50 EC となる。

A団地の土地利用計画により算出した自然環境賦存量は、168.856 NC となり、周辺自然環境からの環境容量は、122.84 EC、都市機能からは、123.5 EC の両方を満足する。言い換えれば、望ましい自然環境を有した団地といえる。

なお、一般にいうA団地の緑被率は14.7%となる。

注. NCは自然環境の賦存状態を表わす (Natural Capacity), ECは環境容量としての自然環境の賦存状態を表わし (Environmental Natural Capacity), 単位は $\text{ha} \times \text{質指数}$ 、とする。

区分		
1	周辺が都	
2	宅地	団
3		
4		
5		集
6	道	歩
7		
8		
9		車
10		線
11	路	
12		自
13		人
14		法
15	緑地	
16		公
17		別
18	公園	
19		学校用地
20	調整池	
21	"	
22	その	